

日本痛風・尿酸核酸学会 総会議事録

開催日時：2025年2月20日（木）13：10～13：30

会 場：国際ファッションセンタービル・両国 KFC Hall&Rooms

久留理事長が議長となり、午後13：10に開催を宣言した。

審議に先立ち議長より本日の出席状況は

会員数 520 名 出席者 73 名 委任状提出者 226 名となっており定款第19条の規定により総会が成立することが報告された。

審議に先立ち総会長の大山博司先生からご挨拶があった。

【第1号議案 2024年度決算・監査報告】細山田先生

貸借対照表について資産の部では資産合計が当年度 527 万円減の 5775 万円、負債の部では負債合計が当年度 184 万円減の 544 万円となり、正味財産合計は 5230 万円と当年度 343 万円の減少となっている。

次に正味財産増減計算書について、ガイドライン転載許諾は当年度 121 万円増で 351 万円の収益となり、第 57 回総会収入は当年度 141 万円減の 1053 万円の収益だったが、経常収益は当年度 25 万円増の 2090 万円であった。

経常費用については、第 57 回総会費用は 1244 万円と当年度 50 万円増である。以上より、経常費用は前年比 153 万円減の 2433 万円となった。

財産目録では正味財産が 5230 万円と貸借対照表の正味財産と一致している。また税理士の確認報告書を得ているとの説明があった。

久留理事長より監査報告は内田監事からすでに受けているとのことであった。その後議長が議案1の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第2号議案 2025年度予算案】細山田先生

経常収益について、受取寄付金は前年度と同額の 110 万円と計上、特別賛助会費と正会員会費は前年度とほぼ同額のそれぞれ 60 万円と 420 万円と計上、第 58 回総会収入は 1204 万円と計上している。

次に経常費用について、給料手当の 90 万円増額を計上するほかは、前年度決算とほぼ同程度である。租税公課は 2024 年度の事業収入に対して計算された 101 万円を計上している。第 58 回総会費用は 1204 万円と収入と同額で試算している。

以上より、2024 年度予算案として経常収益を 2272 万円、経常費用を 2522 万円と、経常増減額を 250 万円減と見込んでいる。

その後議長が議案 2 の賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。

【第 3 号議案 第 60 回総会（2027 年開催） 会長選出】 久留理事長

第 60 回（2027 年開催）学会総会の会長候補者として帝京大学薬学部 人体機能形態学 細山田 真 先生を推挙することが提案され、議長が賛否を諮ったところ、出席者全員の賛同を得て承認された。その後細山田先生よりご挨拶があった。

【第 4 号議案 活動報告】 久留理事長

1. 2024 年度学会賞受賞者決定報告

2024 年度の学会賞は両国東口クリニック 大山 博司 先生に決定したとの報告があった。

2. 2024 年度優秀論文賞受賞者決定報告

優秀論文賞について両国東口クリニック 藤森 新 先生、帝京大学 細谷 拓司 先生、両国東口クリニック 大山 博司 先生の論文が優秀論文賞に決定したことが報告された。

3. 2024 年度若手研究者支援事業若手研究者賞・若手研究助成決定報告

若手研究者賞は防衛医科大学校 河村 優輔 先生に決定した。また若手研究助成については、名古屋大学 大橋 勇紀 先生、東京薬科大学 関根 舞 先生、自治医科大学 桑原 政成 先生、帝京大学 藤井 航 先生、久留米大学 森川 渚 先生の 5 名の先生に決定したとの報告があった。寄付していただいた富士薬品様には感謝状を贈呈したとのことであった。

4. 第 58 回総会優秀演題賞候補演題決定報告

プログラム委員会を中心とした審査の結果、第 58 回総会優秀演題賞候補演

題として臨床部門 1 演題、基礎部門 3 演題、メディカルスタッフ部門 1 演題を選出した。総会において実際の発表をみて最優秀演題賞と優秀演題賞を決定するとのことであった。

5. 2024 年度 Web 講演会報告

第 1 回は 2024 年 6 月に京都大学 中山 健夫 先生に講演いただいた。第 2 回は 2024 年 10 月に防衛医科大学校 河村 優輔 先生と、早稲田大学 榊原 伸一 先生に講演いただいたとの報告があった。

6. 編集委員会報告

2024 年 J-Stage アクセス数は月平均 29,200 アクセス、2024 年学会誌の掲載論文数は計 12 編、J-Stage での公開の仕方を、PDF を開かなくても全文閲覧可能にできるように変更中とのことであった。

7. 認定痛風医資格制度委員会報告、COI 委員会報告

2024 年度教育研修会は 1 か月間のオンデマンド形式で行い 36 名の受講があった。認定痛風医は更新 9 名、新規 1 名の受講があり全員資格を満たしていることが確認されている。2025 年の教育研修会もオンデマンド形式で開催予定。現在学会ホームページにて参加受け付け中であるとの報告があった。COI 委員会からの報告はなしとのことであった。

8. ガイドライン広報委員会報告（ガイドライン中国語翻訳版の進捗状況）

2023 年 9 月にガイドライン第 3 版の中国語翻訳版が出版されプロモーション活動中である。売り上げについては、4 月にエージェントから報告がある。知合いの中国の方にお伝え頂き、販売を応援して頂けると幸いですとのことであった。

9. ダイバーシティ推進委員会（2021 年 2 月発足）報告

第 57 回 学会総会では託児室の募集、ニーズ調査アンケートを実施した。第 58 回 学会総会でも託児室やニーズ調査アンケートを実施中。ダイバーシティ推進委員会主催のシンポジウムを 2 月 21 日（明日）に行う。男女共同参画学協会連絡会の正式加盟学協会会員になったとのことであった。

10. 若手委員会（2021 年 5 月発足）報告

現在委員 20 名、オブザーバ会員 4 名、相談役 1 名、2 か月に 1 回の Web 会議を実施している。参加者の研究発表や、最新の尿酸研究に関する議論を

行っている。そのほか尿酸に関する総説論文作成や他学会とのジョイントシンポジウムの立案なども行っている。また高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン第4版作成の協力にも力を注いでいる。2月21日(明日)朝7時30分から公開式のハイブリッド若手委員会を行うのでぜひ見学にきてほしいとのことであった。

11. 学術交流委員会（2023年6月発足）報告

主な活動として、動脈硬化学会 TEAM 事業「脳心血管病予防に関するリスク管理チャート」に尿酸に関する記載を追記修正、高血圧学会との合同シンポジウムを開催、臨床薬理学会総会にて尿酸関連のシンポジウムを開催、生活習慣病関連9臨床団体に参加、第89回日本循環器学会学術集会教育セッション開催、2025年度他学会との共同シンポジウムを企画中などが説明された。

12. ガイドライン改訂委員会報告（2024年4月発足）報告

96のCQの中から6つのCQを採用しこれからシステマティックレビューに入っていく段階。今田恒夫委員長のもと順調に進んでおり2026年12月発刊を目指すとのことであった。

13. ありかた委員会報告

薬剤の併用、単位取得可能な協力学会の拡大、他学会との合同企画などは達成できたが、今後の課題として、整形外科学会やリウマチ学会・基礎系の学会との連携不足、産官学連携（企業等）、調査研究、国際交流、予防啓発活動・患者との連携があげられるとの説明があった。新理事長のもとで皆さんと一緒に取り組んでいただきたいとのことであった。

14. 庶務幹事報告

HPのアクセス数は月平均2,500アクセス、会員数520名で前年度に比べて20名減少している。先生方のネットワークを生かして会員を増やしていくことにご協力をお願いいたしますとのことであった。

【第5号議案 新評議員選出報告】久留理事長

久留理事長より、評議員会にて経遠智一先生が新評議員に選任されたとの報告があった。

【第6号議案 役員改選報告】久留理事長

久留理事長より、第58回総会終結時をもって理事長を辞任し、理事会にて新理事長に市田公美先生、新副理事長に荻野和秀先生が選任され、現副理事長の山内高弘先生は留任との説明があった。

最後に第59回総会長の山内高弘先生、新理事長の市田公美先生、さらにこの総会をもって退任する久留理事長よりご挨拶があった。

以上で総会の審議はすべて終了し、議長は13時30分に閉会を宣言した。

上記議事録の内容が正確であることを証する為、定款第21条の規程により議長（理事長）及び出席理事2名が議事録署名人としてこれに記名押印する。

2025年2月28日

議長（理事長） 久留 一郎

議事録署名人（理事） 市田 公美

同 細山田 真